

令和 3 年 3 月 29 日

## 「しろねこ共育イベント

## 高校生とこれからのまなび×まちづくりを考える」の事例研究について

氏名 岡 昌子

- 1 日 時 令和 3 年 3 月 17 日 (水) 14:30～ 17:00
- 2 会 場 白根学習館 ラスペックホール
- 3 対 象 地域住民
- 4 運営団体 新潟市南区産業振興課 白根地区公民館

## 5 活動の概要

第1部 まなび×まちづくりを見つめる ～白根高校の探求授業の実践より～  
生徒が主体的に課題を設定し、情報の収集や整理・分析しまとめるなど能力の育成を目的とし、地域との連携した取り組や、課題解決策などを考える。(テーマ 中ノ口川・特産の梨)

第2部 白根高校生による地域課題解決に向けたアイデア発表会～コミュニティコーディネーター養成講座より～  
地域活動の若い担い手の育成を目的にした白根地区公民館 CC 講座を受講し、地域課題に向き合い解決方法を考えた実践発表 (テーマ 南区民の健康意識を高める)

## 6 活動にみえる「次世代育成」

どちらの実践活動報告もこれからの社会を生きる・つくる力を育むために必要な学びを目的としたものである。自分の住んでいる、通っている地域に関心を持ちより深く知ることで見えてくる地域の良いところや課題に気づき、その課題に向き合い色々な人と関わりながら、課題解決のアイデアを出し合う。そのアイデアが地域から認められ活動につながり、課題解決の一助になれば、生徒にとっての嬉しい成功体験になり地域にとっては高校生の若い感性が新たな課題解決の糸口にもなりうる。地域・学校・行政の協働によるこのような取り組みは地域の次世代育成にはますます必要になる。

## 7 今後に向けて考える

令和4年度から新潟市のすべての小、中学校でコミュニティ・スクールが導入される。これまで以上に、地域と学校が子どもたちの未来の創造にむけ、目標やビジョンを共有し、連携・協働により推進されるものになる。今回の事例はこの延長線上にあり、小、中学校で培われた地域との関わりによる育ちと、高校生という少し広い視野をもって地域を見つめ、何らかの活動につなげるこれらの取り組みは「次世代育成」を考えるうえで、大きな役割を果たすものになると思う。今後はこのような取り組みがそれぞれの高校の実状にあった形、方法で広がっていくことを期待したい。

以上

「高校生とこれからの『まなび×まちづくり』を考える」の事例研究について

氏名 笹川 博人

- 1 日 時 令和3年3月17日(水) 14:30~17:00
- 2 会 場 白根学習館ラスペックホール
- 3 対 象 一般市民
- 4 運営団体 南区役所産業振興課 白根地区公民館 県立白根高等学校

5 活動の概要

白根地区公民館CC育成講座で白根高校生を対象とする事業。「総合的な学習の時間」が令和4年度から「総合的な探求の時間」になる。

第一部では角野仁美さんによる「なまび×まちづくりを見つめるー白根高校の探求授業の実践よりー」と題し、これまでの白根高校と連携した探求の取り組みの概要が説明されて、今年度参加した高校生の活動が発表された。

第二部では「白根高校生による地域課題解決に向けたアイデア発表会」が行われ、「南区民の健康に対する意識を高めるにはどうしたらよいか」というミッションに対し、小林地区を中心にこの難題に挑んできた成果を発表したものである。

6 活動にみえる「次世代育成」

第一部の発表では、1961年8月の白根町の水害の様態を写した写真をもとに、過去の地域の苦闘が聞き取りによりあぶりだされ、別のチームは梨農家にベトナムの留学生と収穫体験したことを発表され、地域の宝を新ためて認識したことで、地域に対する意識が変わってきたことを感じさせられた。いずれも家族だけからは体験しがたいものがあり、CC育成講座の成果が現れていると強く思われる。

第二部のアイデア発表会では、3チームによる独自の発想による提案があった。

1. 思いのこもったチラシやポスターで健康診断の受診を呼びかけようと色彩豊かなポスターを作製した。
2. 「親子でおいでよ運動会」のアイデアでは、これまで親子参加型の種目がなかった小林地区運動会において、親たちの運動不足解消に一役かうのではとの思いから発想されたものだ。
3. 「とつてもらくなフィットネス (TRF)」では、どこでも誰でも簡単にできるフィットネスを考案し、動画を作って発信するというアイデアである。

以上3点共に、高校生が地域課題に向きあい、考え、行動を起こした事例として評価したいものだ。

「次世代育成」はもちろん「世代を超えた育成」でもあると思われる。

7 今後に向けて

3年前での犬追地区での「スマホで遊ぼうーシニア同志のコミュニケーションを高めるために」、2年前の「しろねこ行進曲ーまちなかを昔のようににぎわいで!」、昨年の「庄瀬地区での防災を考える」ことなど、いずれも高校生らしい若々しい発想とアイデアで、地域に強く受け入れられたものばかりである。山のようにある地域の宝を自ら探し出し、課題を見つけ、考え、行動にうつすこのような取り組みは、あせらず・さわがず・じっくりと地道に継続してほしい。高校生にとり親世代よりうえのシニア世代は、昔のことを聞かれれば、ニコニコと話したがる人が多いものだ。今のうちに大切な年寄りの知恵を地域から学んでいくことを強くすすめたいものだ。

以上

令和3年3月19日

しろねこ共育イベント「高校生とこれからのまなび×まちづくりを考える」の事例研究について

氏名 田中 一昭

- 1 日 時 令和3年3月17日(水) 14:30~17:00  
2 会 場 白根学習館ラスペックホール  
3 対 象 どなたでも
- 4 運営団体 南区産業振興課、白根地区公民館

## 5 活動の概要

学習指導要綱の改正により、令和4年度より高校生の「総合的な学習の時間」は、「総合的な探求の時間」に変更される。これは生徒が主体的に課題を設定し、情報の収集や整理・分析をしてまとめるといった能力の育成を目的としている。教科書を使わず、地域と連携した取組や、地域の課題解決策などを考えていく授業である。

白根高校は、先進して区役所や公民館と連携し、様々な地域活動に取り組んできた。こうした活動が、生徒自身の成長と地域を発信できる重要な人材育成につながっている。

## 6 活動にみえる「次世代育成」

活動により「自ら考えて行動できるようになった」「いろいろな人と話してコミュニケーション能力が上がった」「アイデアを出すことが苦手じゃなくなった」など生徒自身が成長を実感できている。

地域にとっては、地域を発信できる重要な人材を育成することができた。

高校生が入る多世代交流によって地域の課題や強みをより実感できるのではないのでしょうか。高校生は自信が成長を感じる。地域にとっては地域を発信してくれる重要な人材が確保できる。ウィンウィンの関係なのも良い。

## 7 今後に向けて

今回、南区と角野さんの実践を聞かせていただき大変勉強になりました。素晴らしい取り組みで感銘いたしました。有意義な時間をありがとうございました。

ひとつ気になったことを書かせて下さい。

とても良い取り組みなのですが、CC講座参加生徒が12名、白根高校全校生は200名、参加率6%は正直少ないと思います。多少強引でももっと参加生徒を増やすことを提案します。(素晴らしい活動なので！)

事情もよく知らずに生意気な事を書き申し訳ありません

以上

令和3年4月27日

## 「高校生とこれからの学び・まちづくりを考える」の事例研究について

氏名 田中宏和

- 1 日 時 令和3年3月17日(水) 14:30 ~ 17:00
- 2 会 場 白根学習館
- 3 対 象 地域住民
- 4 運営団体 南区産業振興課、白根地区公民館

### 5 活動の概要

- ・コミュニティコーディネーター養成講座「白根高校生による地域課題解決に向けたアイデア発表会」課題:南区民の健康に対する意識をもっと高めるにはどうしたらよいか。
- ・12名の白根高校生アイデア発表、3つのアイデアの提案理由が明確で内容が詳細にまとめられていた。また、小林地区で一つでも実践できるように取り組むようにすること。
- ・地域住民との交流などがスマホ講座のようにできると、高校生の意欲の向上に結びつく。

### 6 活動にみえる「次世代育成」

- ・地域課題の解決に向けた取り組みが「次世代育成」となっている。
- ・継続した地域連携で取り組むことで成果が期待できる。
- ・南区の健康課題は南区たより5月号で公表されている内容であり、少なからず南区民は認識していると思われる。従って、この課題解決をテーマにすることで多くの世代が関わり結果的に「次世代育成」につながっていくのではないかと思う。

### 7 今後に向けて

<私見ではあるが>

このような活動を展開する高校生のアイデア発表会をクローズアップする。  
名付けて「高校生アイデア甲子園～若い力で地域を活性化～」活動チームをネットワークで結び、アイデアを評価し、賞賛し合い、蓄積するとよいと思う。

以上